

# R.D.C

Relation Design Center

ソウルフルな木づくり

## 企業と地域と個人を繋ぐスギダラケ倶楽部

- 1、スギダラケ倶楽部とは
- 2、企業と社会と個人の新しい関係
- 3、地域と森と企業そしてデザイン

関東：栃木  
信託設計：信託

会員：約1,100人

日本全国スギダラケ倶楽部



# Sugidara Map

日本全国スギダラケ倶楽部  
会員:約1、700人

本部：東京  
支部：15支部







スギダラとは...

「杉コレ2010 in 西部」  
にご協力を！

OBISUGI DESIGN

日南発酵肥杉デザインプロジェクト

スギやねん、関西

スギダラ関西支部 + teamカスカイ UP!

南のスギダラ

ミヤダラ軍団

スギダラ北陸九州

妄想スギダラ + 杉モノデザイン展

オビダラ日記

日南市から発進！

月刊杉 WEB版

UP! 62号発刊しています！



高小中学校 夢空間 冊子.pdf

スギテン

浜松・天竜のスギダラ

スギアワー

岡山県西栗倉村のスギダラ

ヤタダラ

日本全国ヤタイダラケ倶楽部

北のスギダラ

スギダラ 秋田支部

内務土佐・窓山デザインコンテスト

窓山再生WS&デザイン会議

スギダラ家の人々

スギダラ 東京本部

ナガレモノ日記

東京支部 フキダラト キョー

### 南のスギダラ

www.obisugi.com

トップ | ログイン



スギダラ編集部 宮崎県大野川市  
by sugidara-magazine

#### 今秋募集中心

日本全国スギダラ編集部  
宮崎県大野川のブログへようこそ！

日本一のお杉産地を誇る宮崎県にはお杉愛し、お杉の魅力をもっと広めてゆこうと日夜走り回っている面白い仲間がたくさんいます。あなたも一緒にスギダラに参加しませんか？

編集数は 15000部 発行先  
www.obisugi.com

#### リンク

日本全国スギダラ編集部  
月刊WEB版

スギダラ 奥の山  
北のスギダラ  
スギダラ 大野川  
ナガサキ 徳島  
マダガスカル  
スギダラ 大野川  
スギダラ トーナメント  
提供企業

#### obisugi design

月刊いっしょ  
宮崎県水産物加工振興会  
論争 赤松コンシェルジュ  
たけのこクラブ  
日本産物協会  
自然派年々めいせクイン  
川上本村  
杉の木の造り  
風景の記憶  
杉のホームを築く  
コンシェルジュ系おしほ

Copyright © 2005 obisugi.com

home number 今月号目次 sugidara map information staff links ご感想

## 月刊 杉 WEB版

月刊杉WEB版2号

特賞 祝！obisugi design グッドデザイン・日本商工会議所会賞！



今月の西越 宮崎県大野川の杉山

11000部発行

GEKKAN-SUGI sheet 2005.07.15



オフィス版木育

# ウッドスタート宣言

企業からはじめる活樹

**T** 東京おもちゃ美術館

認定NPO法人日本グッド・トイ委員会

オフィス版木育

## ウッドスタート宣言の条件

- |              |               |
|--------------|---------------|
| 社員食堂に国産材割り箸  | オフィスを内装木質化    |
| 誕生祝い品に木製玩具   | 企業内保育所を木育化    |
| 定年退職祝い品に木製商品 | オフィス文具を木質化    |
| 社員研修に木育プログラム | バイオマス発電の導入    |
| 社屋に木育フロアの設置  | 店舗・ショールームの木質化 |

## ウッドスタートとは



平成18年9月に閣議決定された「森林・林業基本計画」の一環として推進されている木育事業の発展系として位置する国産材の木づかい運動の行動プラン。

「木」を真ん中に置いた子育て・子育て環境を整備し、全ての子どもたちが人生最初のステージを、木の温もりを感じながら、楽しく豊かに送ることができるようにしていく行政、民間企業及び団体などの取り組み。

具体的には各地域で生まれた赤ちゃんに地産地消の木製玩具を誕生祝い品としてプレゼントする事業、子育て環境に地域材をふんだんに取り入れ、木質化・木育化する事業などを展開する。

## ウッドスタート宣言市町村



- |   |  |   |  |   |
|---|--|---|--|---|
| <br><b>新宿区</b><br>SHINJUKU CITY<br>2011年4月 | <br><b>小田原市</b><br>2013年11月予定 | <br><b>雨竜町</b><br>2013年7月  | <br><b>伊那市</b><br>2012年10月  | <br><b>美濃市</b><br>2012年10月 |
| <br><b>飯館村</b><br>2013年7月                  | <br><b>国頭村</b><br>2013年11月    | <br><b>小国町</b><br>2013年11月 | <br><b>西栗倉村</b><br>2013年11月 | <br><b>府中市</b><br>検討中      |



## ウッドスタートとは…

ウッドスタートとは、東京おもちゃ美術館が推進している「木育」の行動プランのこと。

私たちが目指しているのは、ウッドスタート宣言した「100の企業」と「100の自治体」を結びつけること。  
雇用安定による社会福祉を担う「企業」と地域の活性化を積極的に推進している各「自治体」とが、手と手を取りあうことで、企業の社員も元気になり、林業・林産業も活性化される。そして、日本の森林を元気にする大きなエネルギーにもなるのです。



### ウッドスタート宣言市町村 (2014.3.現在)

- 宣言
  - ・雨沢町(栃木県) ・飯沼村(群馬県) ・新宿区(東京都) ・塩尻市(長野県) ・美濃市(岐阜県) ・西条市(山口県) ・小国町(山口県) ・国東村(山口県)
- 検討
  - ・岩手県(岩手県) ・弘前市(青森県) ・上野村(群馬県) ・新城市(新潟県) ・東条郡町(新潟県) ・越後町(新潟県) ・小国市(山口県) ・月波山村(山口県) ・伊豫市(長野県)
  - ・府中町(山梨県) ・三次市(佐賀県) ・佐原市(茨城県) ・小豆島町(香川県) ・豊浦市(福岡県) ・日南市(熊本県) ・埴野町(熊本県)

### お問い合わせ

認定NPO法人  
日本グッド・トイ委員会  
ウッドスタート事業部

〒160-0004  
東京都新宿区四谷4-20 四谷ひろば内  
tel : 03-5367-9631 hp : <http://goodtoy.org/>  
fax : 03-5367-9602 e-mail : [info@goodtoy.org](mailto:info@goodtoy.org)

東京おもちゃ美術館  
hp : <http://goodtoy.org/tmv/>

木育ラボ  
hp : <http://mokuikulabo.info/>  
e-mail : [ws@mokuikulabo.info](mailto:ws@mokuikulabo.info)



## 企業版 ウッドスタート宣言



### ウッドスタートプログラムのご紹介

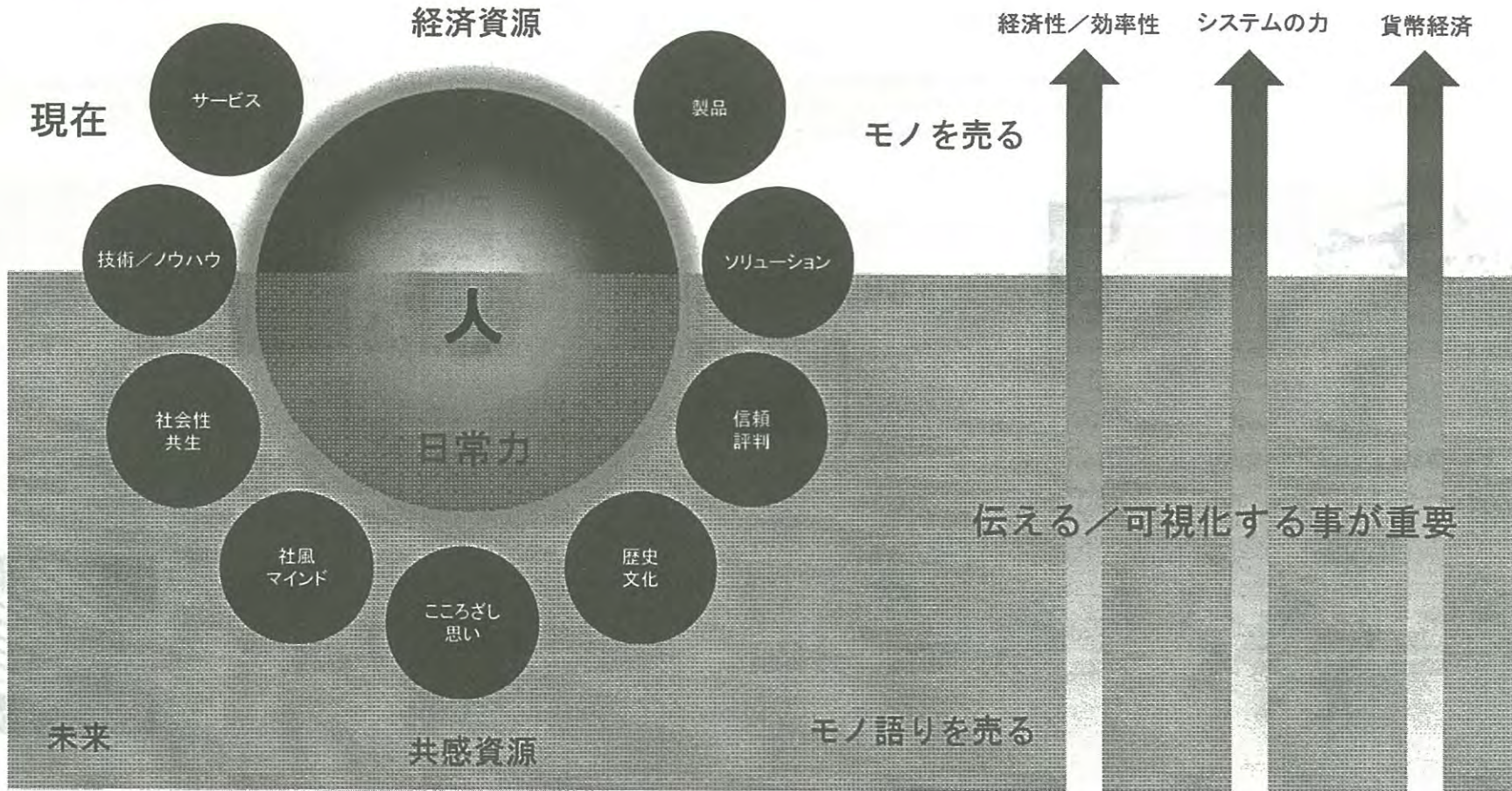






未来に向けた価値とは

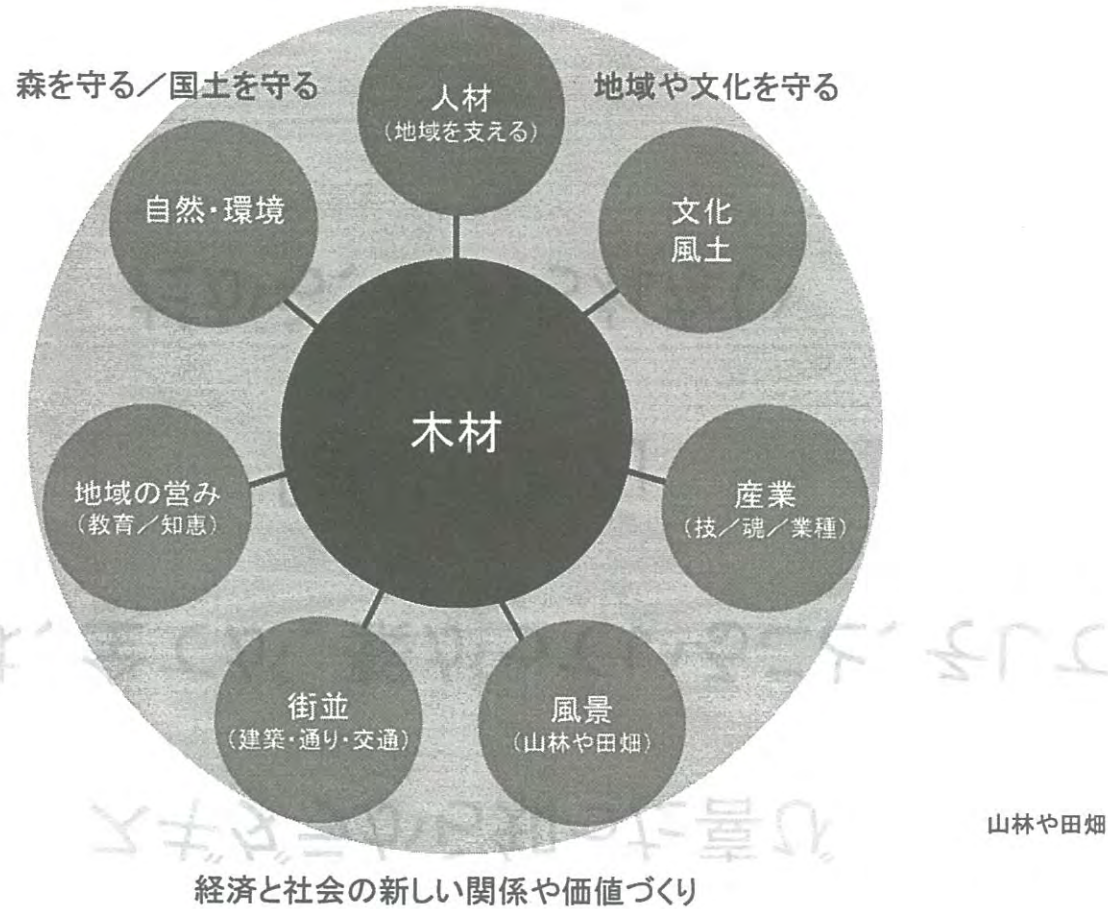
何が大切なのか？ 森から始まる価値作りへ



社会性/共生    人の力    共感資本



杉から見る未来(我々が置き忘れてしまったもの) UCHIDA DESIGN WORK



## 木材と木材を囲む財産の関係性のデザイン



## スギダラから知った喜び

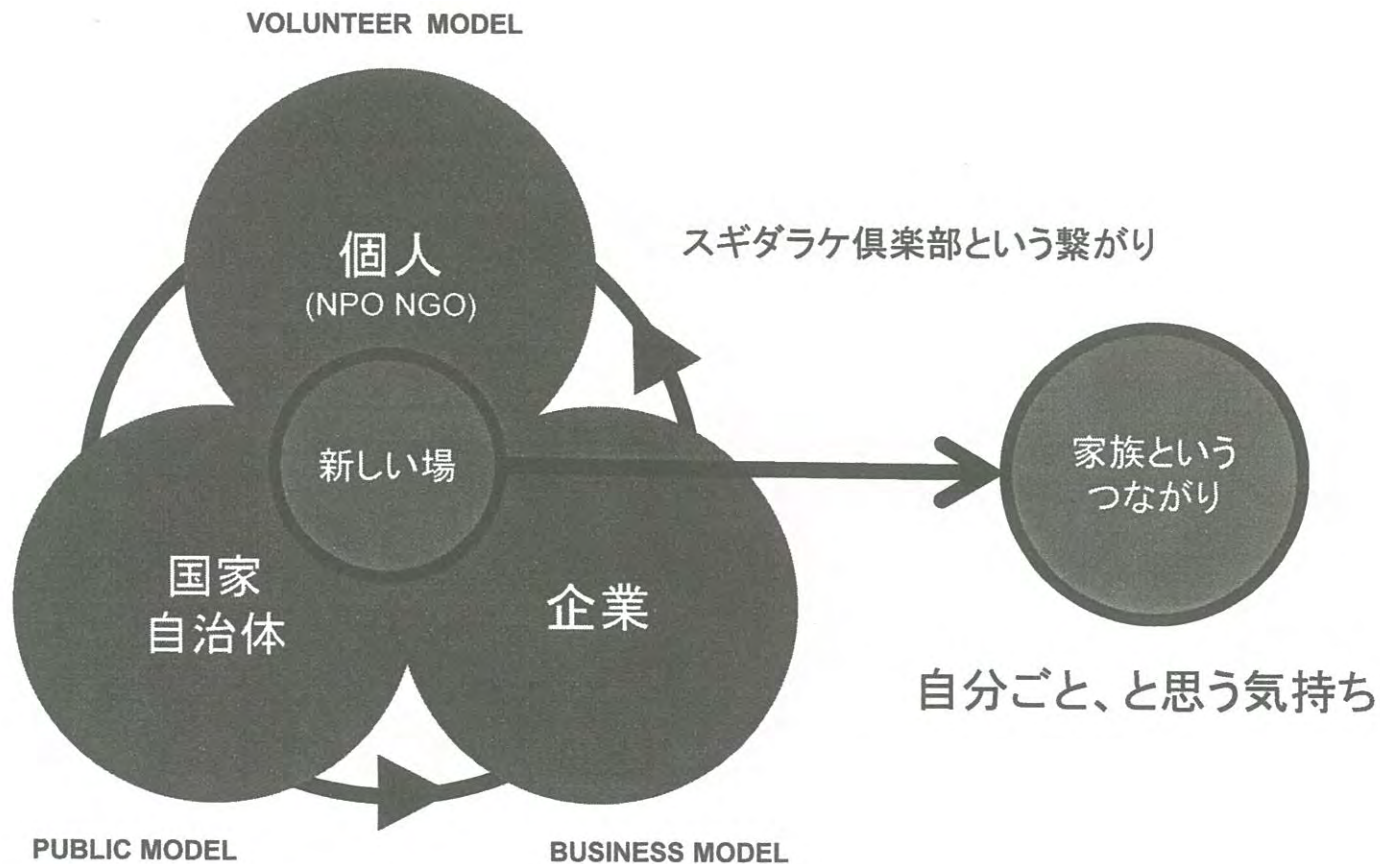
それは、全てが、繋がっていること、そして

「ありがとう」

だから、やめられない



# 社会構造の変化と経済システム





# 流域は一つ・運命共同体「矢作川流域圏懇談会」に参加しませんか!

市民会議(個人・市民団体・NPO法人・企業)のメンバー募集中

## 矢作川流域圏懇談会規約(抜粋)

※詳細は下記ホームページをご覧ください。

- 第1条 (名称)  
本会は、「矢作川流域圏懇談会」(以下、「流域圏懇談会」という。)と称する。
- 第2条 (目的)  
流域圏懇談会は、矢作川流域圏に關係する各組織のネットワーク化を図るとともに、流域圏住民と関係者が交流を深め、流域圏一体化の取り組み、ならびに矢作川に係る河川整備について、情報共有・意見交換を行うことを目的とする。なお、流域圏懇談会の構成員は、調和のとれた矢作川流域圏の実現に向け、お互い協力・連携するものとする。

## 第3条 (活動内容)

流域圏懇談会は、次に掲げる活動を行う。ただし、法律で認められた権利の侵害等に直接結びつくと考えられる内容については、取り扱わないものとする。

- 流域圏一体化の取り組み
  - 課題についての情報共有を図る。
  - 流域圏懇談会で取り扱う課題を整理する。
  - 課題に対して、協働・連携した取り組みを意見交換する。
- 矢作川に係る河川整備について
  - 河川整備の進捗状況について、情報共有を図る。
  - 河川整備の進め方等について、意見交換を行う。

▼切り取ってハガキに貼って送っていただいても良いです▼

矢作川流域圏懇談会事務局:  
国土交通省 中部地方整備局 豊橋河川事務所 調査課  
[所在地] 〒441-8149 豊橋市中野町字平西1-6  
[TEL] 0532-48-8107 [FAX] 0532-48-8100 [mail] toyohashi@cbr.mlit.go.jp

### 「矢作川流域圏懇談会」応募用紙

1.団体・法人名 ※1	2.所在地 ※1				
※1 この欄は、個人で応募の場合は記入不要です。					
3.氏名(代表者名) ※2 (氏名(ふりがな))	4.性別 (役職)	5.年齢 歳	6.電話番号・FAX TEL: FAX:		
7.〒 住所	8.Eメールアドレス ※アドレスをお持ちの方				
※2 団体、法人、企業の場合は代表者名及び役職を記入ください。					
9.応募の動機 ※3					
10.矢作川流域圏に対する思いと課題 ※3					
11.地域での活動歴がある場合はその内容 ※3					

※3 この欄に書ききれない場合は別紙でも結構です。(横書きをお願いします。)

- 参加のルール**
- 参加者全員が平等な立場にあることを自覚し、参加者の意見は所属団体の公的見解とせず自由な議論をします。
  - 議論はフェアプレイの精神で行い、特定の個人や団体を誹謗中傷するような発言は行いません。
  - お互いの意見をよく聞き、尊重し合いながら意見交換します。
  - お互いに協力し、矢作川の発展のための推進に努めます。
  - 流域圏懇談会の参加にあたって必要となる交通費等、一切の経費は応募された方々の自己負担とさせていただきます。
  - ご応募の際にご送付いただいた応募用紙に記入の個人情報、本募集の目的以外には使用いたしません。

## 応募資格

- 矢作川流域圏における様々な諸課題に対して活動を行っている、又は活動を予定している個人・市民団体・NPO法人・企業等で、矢作川流域圏懇談会の趣旨に賛同し、積極的かつ継続的に取り組む意思があること。
- 個人の場合は、上記に加えて、矢作川流域圏に在住又は勤務し、かつ、満18歳以上である方。

## 応募方法

住所、氏名(団体・法人名)、年齢、連絡先、応募の動機を応募用紙に記入し、郵送、ファックス又は電子メールでご応募ください。

なお、応募用紙は、国土交通省中部地方整備局豊橋河川事務所ホームページ、あるいは左側の応募用紙をご利用ください。

### ホームページアドレス

<http://www.cbr.mlit.go.jp/toyohashi/yahagigawa-unity/kondan/index>

## 応募先

矢作川流域圏懇談会事務局  
国土交通省 中部地方整備局 豊橋河川事務所 調査課  
・所在地 〒441-8149 豊橋市中野町字平西1-6  
・TEL 0532-48-8107  
・FAX 0532-48-8100  
・E-mail toyohashi@cbr.mlit.go.jp

## 応募期間

継続して募集しています。

矢作川流域圏懇談会資料は、国土交通省豊橋河川事務所、矢作ダム管理所で閲覧できます。  
また、上記組織のホームページにも掲載されています。応募用紙の様式もダウンロードできます。

### 「矢作川流域圏懇談会」についてのお問い合わせ先

国土交通省中部地方整備局 豊橋河川事務所  
〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1番6  
TEL 0532(48)2111(代) FAX 0532(48)8100  
<http://www.cbr.mlit.go.jp/toyohashi/>

国土交通省中部地方整備局 矢作ダム管理所  
〒441-2841 愛知県豊田市閑瀬瀬町東畑67番地  
TEL 0565(68)2321 FAX 0565(68)2328  
<http://www.cbr.mlit.go.jp/yahagi/>

流域は一つ、運命共同体。調和の取れた流域圏を

# 課題解決に向け、 あなたの参加を待っています。



ダム貯水池の流木処理



手入れされていない森林



繁茂した河内道の樹木



東海(豊南)豪雨時の状況 豊田市内



不法投棄された自動車



干潟、ヨシ原の減少した河口域



渇水のため水位が下がった矢作ダム  
(平成8年9月:貯水率17%)



外来種(カワヒバ/ウグイス)



外来種(オオカナダモ)繁茂状況  
豊田大橋付近



### 矢作川流域圏における諸課題

矢作川流域圏懇談会



# 1 どんな組織なの？

国土交通省では、矢作川流域の方々のご意見を踏まえて平成21年7月に国が管理する区間の「矢作川水系河川整備計画」を策定しました。今後、矢作川における治水、利水、環境、維持管理等の課題を解決し目標を達成していくためには、川の中だけの視点ではなく、水のつながりという視点で山から海までの流域圏(※1)全体を対象として、多様な課題の解決に向けて市民、関係機関、有識者の方々等と一緒に話し合い、役割をもちながら連携・協働して行うこと

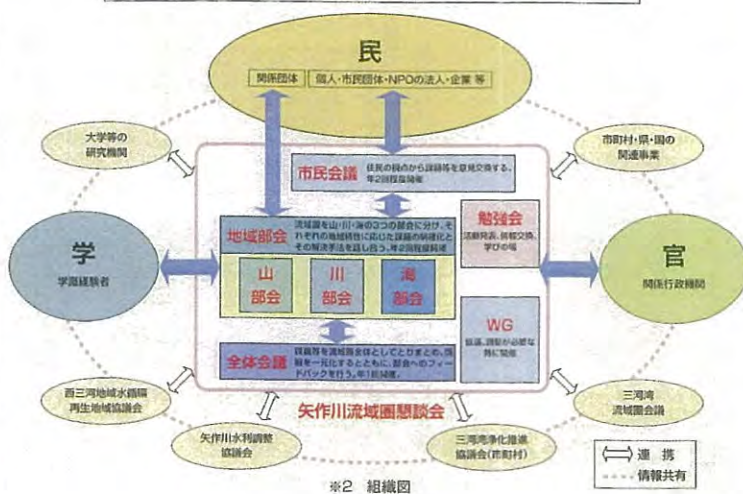
が必要であり、調和のとれた流域圏全体の発展につながるかと考えています。このため、国土交通省豊橋河川事務所では、多様な課題の情報共有・意見交換の場として、矢作川流域圏に係る個人・市民団体等、関係団体、学識経験者、国、県、市町村の関係行政機関で構成する「矢作川流域圏懇談会」を平成22年8月28日に設立(※2)しました。ついでに、流域圏懇談会の趣旨に賛同し、ご協力いただける個人・市民団体・NPO法人・企業等の公募を行っています。

矢作川流域圏とは、矢作川流域、その流域に接する海域、及び矢作川の水利用地域や矢作川が氾濫する地域を含む一体的な地域。



※1 矢作川流域圏

流域圏懇談会は「全体会議」、「地域(山、川、海)部会」、「市民会議」で構成する。必要に応じてワーキンググループ(WG)、勉強会を開催する。



※2 組織図

## 参加組織

平成23年4月時点

【民(個人・市民団体等)】個人8人、市民団体等の29団体  
 【民(関係団体)】森林組合、漁業協同組合、土地改良区、中部電力(株)、矢作川水源基金、矢作川沿岸水質保全対策協議会等の14団体  
 【学(学識経験者)】11人  
 【官(行政機関)】3省1庁、3県13市4町2村

民(うち、個人・市民団体等)	民(うち、関係団体)	学(学識経験者)	官(行政機関)			
豊田市 在住 豊田市 在住 岡崎市 在住 岡崎市 在住 岡崎市 在住 刈谷市 在住 西尾市 在住 西尾市 在住 Bio de Bio アド清濁愛護会 伊勢 三河湾流域ネットワーク 奥矢作森林塾 乙川を美しくする会 上矢作ダム問題連絡協議会 上矢作町自治連合会 加茂川を美しくする会	中部森林開発研究会 鳥川木タケ保存会 豊田市自然愛護協会 西三河野鳥の会 早川をよみがえらせる会 三河湾浄化市民塾 水と緑を守る会・岡崎 森を再生する会 家下川を美しくする会 矢作川川会議 矢作川小学校 矢作川環境技術研究会 矢作川漁業協同組合 矢作川清流の森むぼ 矢作川森林塾 矢作川水系森林ボランティア協議会 矢作町自治連合会 矢作川治水史研究会	矢作川天然アユ調査会 矢作川をきれいにする会 矢作水源フォレストランド協議会 矢作古川を美しくする会 根羽村森林組合 豊南森林組合 豊田森林組合 岡崎森林組合 矢作川水系漁業協同組合連合会 (矢作川漁業協同組合) 豊田森林組合 豊田大学大学院工学研究科 教授 津本 昌郎 名古屋大学大学院工学研究科 教授 藤治 光一郎 津波 昌郎 東京大学愛知演習林長 准教授 丹羽 健司 鳥取大学地域学部 非常勤講師 内田 昌一 愛知工業大学工学部都市環境学科 教授 鷺見 哲也 矢作北部土地改良区連合	豊田 伸一 豊橋技術科学大学建設工系 教授 鈴木 輝明 名城大学大学院総合学術研究科 特任教授 人間環境大学 非常勤講師 洲崎 燈子 豊田市矢作川研究所 主任研究員 山本 敏哉 豊田市矢作川研究所 主任研究員 石田 基雄 愛知県水産試験場 副場長 富川 宗記 愛知県水産試験場内水面漁業研究所 所長 平谷 村(長野県) 根羽村( )	豊 那 市(岐阜県) 瑞 浪 市( ) 設 楽 町(愛知県) 新 城 市( ) 豊 田 市( ) 岡 崎 市( ) 安 城 市( ) 知 立 市( ) 幸 田 町( ) みよし市( ) 刈 谷 市( ) 知 立 市( ) 新 市 市( ) 高 浜 市( ) 津 浦 町( ) 半 田 市( ) 武 豊 町( ) 豊 南 市( ) 西 尾 市( )	長 野 県 危機管理部 環 境 部 農 政 部 林 務 部 建 設 部 岐 阜 県 危機管理部 環 境 生 活 部 農 政 部 林 務 部 県 土 整 備 部 都 市 建 築 部 愛 知 県 防 災 局 地 域 振 興 部 環 境 部 農 林 水 産 部 建 設 部 企 業 庁 水 道 部	林野庁中部森林管理局 名古屋事務所 農林水産省 東海農政 農村計画課農村振興課 整備部設計課 環境省 中部地方環境事務所 環境対策課 国土交通省 中部地方整備局 企画部広域計画課 建設部都市整備課 河川部河川計画課 河川部地域河川課 三河港湾事務所 矢作ダム管理課 豊橋河川事務所

# 2 何をやるの？

- ①全参加者で課題の洗い出しを行い、各課題の関係と山・川・海との関係を見る化します。
- ②課題の見える化から、解決手法を検討・実証し、民(産含む)・学・官のそれぞれが連携し何を行う動向を見つつけ、解決へとつなげます。



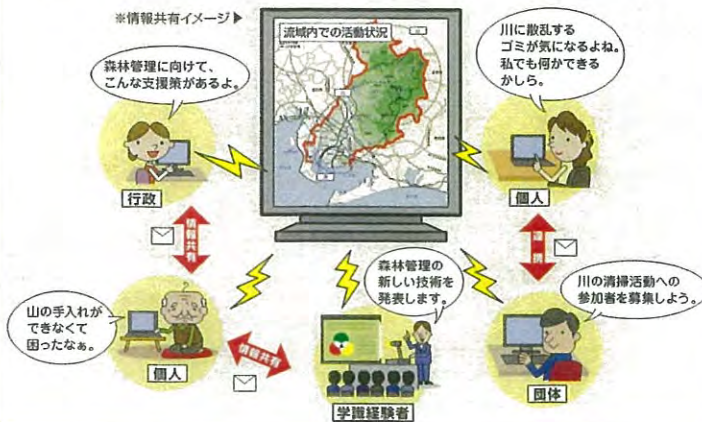
勉強会(山地域)状況

地域部会(川部会)状況

地域部会(海部会)状況

# 3 参加者の情報共有が大切です

インターネットを基本にホームページ、メーリングにより、さまざまな情報を共有します。





# 出発点「矢作川の恵みで生きる」の共有

## 検討の進め方

山村をとりまく  
社会背景の変遷と  
望ましい将来像

### STEP1

過去と現在を  
知る

理解と情報共有を  
促進する

右に記載した事項について、  
具体的に「知る」機会を  
設け、情報共有を図る  
→ 市民企画会議  
→ 勉強会に対応

実現に向けた  
課題と解決手法

### STEP2

未来像実現に向けた  
課題と解決手法を  
考える

情報共有を踏まえ、ま  
ず「人の問題」をテー  
マに解決手法を検討  
→ 市民会議  
→ 地域部会に対応

### STEP3

できることから  
活動を  
実践する

## 人と山村

## 森林

高度経済成長前から現在  
現代  
近未来  
望ましい

- 自給的経済、自立、自治、誇りがあった。  
● 百業をやっていた。
- 若者が中下流の都市へ流出した。  
● 拡大造林によって広大な人工林が形成され、長期間管理し続ける必要があったが、その担い手がなくなった。
- 山村における若者の就業機会が乏しい。就業できても定着できない。  
● 現代では、山村は過疎化、少子化、高齢化、核家族化が進行している。
- 限界集落、消滅する集落が増えていく。残された集落でも山村単独での自治や経済的な自立が困難となり、コミュニティが崩壊する。  
● 国、県、市町村ごと、部局ごとに目指す森林の姿がバラバラで、流域圏一体となった森林管理が行われていない。
- 流域圏にとって望ましい山村のあり方は、収入は多くなくても安定した若者の仕事があり、山村の資源を持続可能なやり方で利用しつつ、経済的に自立すること。  
● 自然の恵みを利用できる知恵のある人が定住していること。

- 薪炭林施業が行われていた。  
● 最上流域や額田地区ではスギ、ヒノキ人工林施業が行われていた。  
● 藤岡・小原・旧豊田・岡崎にはハゲ山も多かった。
- もともと林地地だったところでも、そうでないところでも、もうかるというもくろみと国策により、拡大造林（広葉樹からヒノキ、スギへ転換）を推進した。  
● 国産材を流通させる仕組みが輸入木材に比べて整わず、国産材の価格が低下し、林業が業として成り立たなくなった。
- もともと林地地でなかった地域では、多くの所有者が素人山主で林業を知らない。  
● 管理が行き届かないため過密化した水消費型森林や放置人工林からの土砂流出・崩壊の危険性が増している。
- 林業は利益を確保せざるを得ないことから、森林皆伐後の再生林の放棄が起こり、森林の水土保全機能が喪失する。  
● 不適切な林道・作業道・搬出路が作られ、放置され、土砂が流出し、崩壊の危険性が高まる。
- 流域圏にとって望ましい森林は、自然の力で持続する生態系と人による持続的な維持管理下に置かれる生態系が最適に配置され、多様な生物が生息し、木材や水などの恵みを中下流にもたらししてくれる森林。  
● 木材生産を主目的として管理する森林と、水土保全機能の発揮を主目的として管理する森林を区分し、木材生産に適さない人工林を天然林に戻していく。

## 実現のための課題と解決手法

森林の適切な管理は、まず山村の再生(担い手作り)から！

### 当面の課題1 誰がやるか(人と地域の問題)

- 課題** ● 現金収入、仕事、医療、教育など、出発点に到達する以前の問題が山積。
- 解決手法(例)** ● 既に自発的に始まっている優れた取組を集めた「山村再生担い手づくり事例集」の策定や矢作川流域山村ミーティングを通じ、山村再生の担い手作りを支援する具体的な方策を検討する。  
● 上下流をビジネスサイクルでつなぐ産業振興(流域フェアトレード)の推進(中下流都市中心部での上流生産物販売拠点の設置など)
- 役割分担** 市民・学識経験者・行政が、対等な立場で、一体となって推進していく。

山村再生のために  
先ず「人づくり」が必要  
そのうえで「森づくり」にも  
取り組む必要がある。

- 担い手づくり事例集イメージ
- 山村再生担い手づくり事例集
  - 成功事例1
  - 成功事例2
  - 失敗事例1
  - .....

### 当面の課題2 何をやるか(森の問題)

- 課題** ● 流域圏として統一性のある森林管理を行い、矢作川の森の恵みが中下流や海までいきとどくためのガイドラインが必要。  
● データ不足・研究の遅れによって、「植林こそが正しい」といった誤解を正すことが必要。
- 解決手法(例)** ● 「矢作川流域圏の森づくり・木づかいガイドライン」  
● モデル林の設定とモニタリング  
→ ガイドラインの検証のため、土砂を流す森、節水型森林の手本を作る。
- 役割分担** 市民・学識経験者・行政が、対等な立場で、一体となってガイドラインを策定し、モデル林を設計、施業、研究し、モニタリングを行っていく。

行政・学識経験者・市民が対等な立場で、一体となって策定



矢作川流域圏懇談会山部会 山村担い手事例集団体等

N0	組織名	活動内容
1	安城市環境首都推進課	ネイチャースクールの実施 3年目
2	アイシングループ(アイシン精機)	森林の里親制度による交流 10年目
3	安城市こもれび会	間伐ボランティアグループ
4	豊田市企画政策部	豊田市原田部長との連携の可能性
5	信州大学農学部	根羽村との地域連携協定 13テーマ
6	岐阜女子大学	地域資源活用提案 8年目
7	飯伊森林組合	南信州の木づかいネットワーク
8	恵南森林組合	矢作川流域圏懇談会山部会ヒノキ材搬出
9	豊田森林組合	スギ材搬出
10	岡崎森林組合	スギ材搬出
11	NPO 東濃・森林づくりの会	東濃地域の森づくり活動
12	NPO 福寿の里自然倶楽部	上矢作町アライダシ原生林エコツアー
13	NPO 奥矢作森林塾	里山再生、森林環境教育、古民家再生
14	(株) M-easy	若者よ田舎を目指そう、農業チャレンジ活動
15	旭木の駅プロジェクト	切捨間伐材からの薪づくり・販売
16	とよた森林学校+OB会	人工林の間伐ができる人材の育成
17	とよた都市農山村交流ネットワーク	都市と山村の交流の場づくり活動
18	おむすび通貨	1むすび50円の地域通貨システム創設
19	矢作川水系森林ボランティア協議会	森の健康診断の実施
20	greenmaman	豊田市寺部町で朝市開催、地域で循環
21	農業法人みどりの里	肥料・農薬を使用しない自然栽培の実践
22	豊森なりわい塾	豊田市・トヨタ自動車等の里山活用塾
23	千年持続学校	田舎移住の支援、家を建てる現代版結を实践
24	NPO 中部猟踊会・三州マタギ屋	額田の山の幸を地域と子供たちに伝える取り組み
25	おおだの森保護事業者会	おおだの森の再生、サクラ・カエデ植栽
26	飯伊地域林業再生協議会	南信州地域の地域林業を再生する取り組み
27	長野県下伊那地方事務所林務課	根羽村の林務行政の指導等、密接に連携
28	長野県県産材販路開拓協議会	長野県の木材製品の販路拡大活動を実践
29	JIA 長野県クラブ	こだわりの木の家づくり建築士集団

## 矢作川流域圏における森づくり実践活動

蔵治 光一郎

### 1. はじめに

森林の洪水緩和や渇水緩和機能を巡って研究者が努力している間も、間伐されずに放置される人工林の面積は増加し続け、土砂崩れや水害などの自然災害も毎年のように発生してきた。間伐すべき時期が来ても人工林を間伐せずに過密状態のまま放置することは、自然災害や水枯れのリスクを高め、森林所有者の財産としての価値を損ねるだけでなく、下流域圏の住民の公益も損なわれるという認識が広く形成され、問題解決へ向けて行政、研究者、森林ボランティア、市民による様々な実践活動が全国のいたるところで行われるようになった。それらの活動の多くは、私的所有と公的支援の束縛という森林を巡る古典的なジレンマや、政策転換による制度変更、短期的な国民の価値観の変化に振り回され、挫折を繰り返しつつ成長していく途上にある。

蔵治・保屋野編（2004）は、高知県梶原村の事例を紹介しているが、ここでは愛知・岐阜・長野県を貫流する矢作川の「流域圏の森づくり」に向けた諸活動の成果と課題について、最近 10 年間の動きに焦点を当てて紹介する。矢作川流域の約 7 割は森林で、そのうち約半分はスギ・ヒノキ・カラマツの植林地（人工林）である。本節では矢作川流域圏内の地名がたくさん出てくるが、額田町を除き、図-1 に記載された名称を使用し、岡崎市に合併された額田町については旧額田町と記載する。

なお、10 年以上前から続いている矢作川流域圏の森を巡る諸活動については、すでに多くの出版物で紹介されている（銀河書房編（1994）、依光編（2001）、蔵治ら編（2006）など）ので、本節では概要のみを紹介する。





図—1 豊田市が2005年に広域合併した後、岡崎市が額田町と2006年に合併する前の矢作川流域図（蔵治ら、2006を一部改変）。

## 2. 矢作川流域圏の森と水と人の歴史

矢作川流域圏の森は、江戸時代末期には主に採草地として山焼きを繰り返す管理がされていたか、または薪炭林施業が行われていた。明治初期に入り、稲武地区では古橋源六郎暉兒氏ら、旧額田町では山本源吉氏らが主導し、スギやヒノキの植林が開始された。

矢作川流域に住み、矢作川の水を利用してきた人たちは昔から、森に降った雨や雪が集まった水を使っていることを認識し、森に感謝の気持ちを持っていた。1880年、全国の農業水路のさきがけとなる明治用水が開削され、1901年に明治用水頭首工が完成する。明治用水組合（後の明治用水土地改良区）は、1902年に結成された矢作川漁業保護組合（後の矢作川漁業協同組合）組合長の鈴木茂樹氏の働きかけもあって、1908年から順次、下山地区、旭地区、根羽村、平谷村の森林、計525ヘクタールを購入した。2007年度からはこの森林の維持管理に充当するため「水源かん養林基金」を設立し、広く寄付を募っている。

高度経済成長期の矢作川では流域の開発に伴う濁水が問題となった。1969年に明治用水土地改良区が農・漁業団体に働きかけ、流域市町村も加わり、地域が一体となった水質保全のための組織として矢作川沿岸水質保全対策協議会（矢水協）が設立された。さらに1971年には、地域開

発に関する理論と開発方式の調査研究を行う組織として矢作川流域開発研究会（矢流研）が設立された。矢水協は実戦部隊、矢流研は矢水協の理論的支柱の役割を果たし、矢流研の会長であった伊藤郷平氏が提唱したと言われている言葉「流域は一つ、運命共同体」はやがて矢水協のスローガンとなった（銀河書房編、1994、矢作川漁協 100 年史編集委員会、2003）。

矢作川本流には明治用水頭首工、中部電力が所有する水力発電ダム、国土交通省直轄の多目的ダムなど本流に 7 つのダムがある。ダム等の建設を促進し、水資源の開発と国土の保全に寄与することを目的として、1974 年に施行された水源地域対策特別措置法（水特法）の規定により、全国 8 基金の一つとして矢作川水源基金が 1978 年に設けられた。この基金は、流域圏の人工林の間伐補助金として今に至るまで効果的に使われている。8 基金のうち水源林対策を明記し、間伐の補助金を支出しているのは矢作川と豊川のみである。

明治用水の受益地域が多くを占める安城市は、根羽村との間で「矢作川水源の森」森林整備協定を結んだ。これは 1991 年から 30 年間の 48 ヘクタールの分収育林契約であり、森林整備協定の全国第一号であった。1993 年には豊田市水道事業審議会が「将来にわたり水道水が安全でおいしい水であるためには、水道水源の保全が必要である」と答申し、これを受けて 1994 年に水道使用者から使用量 1 トンあたり 1 円を上乗せ徴収して積み立てる豊田市水道水源保全基金が設けられた。この基金による人工林の間伐は 2000 年から始まっている。

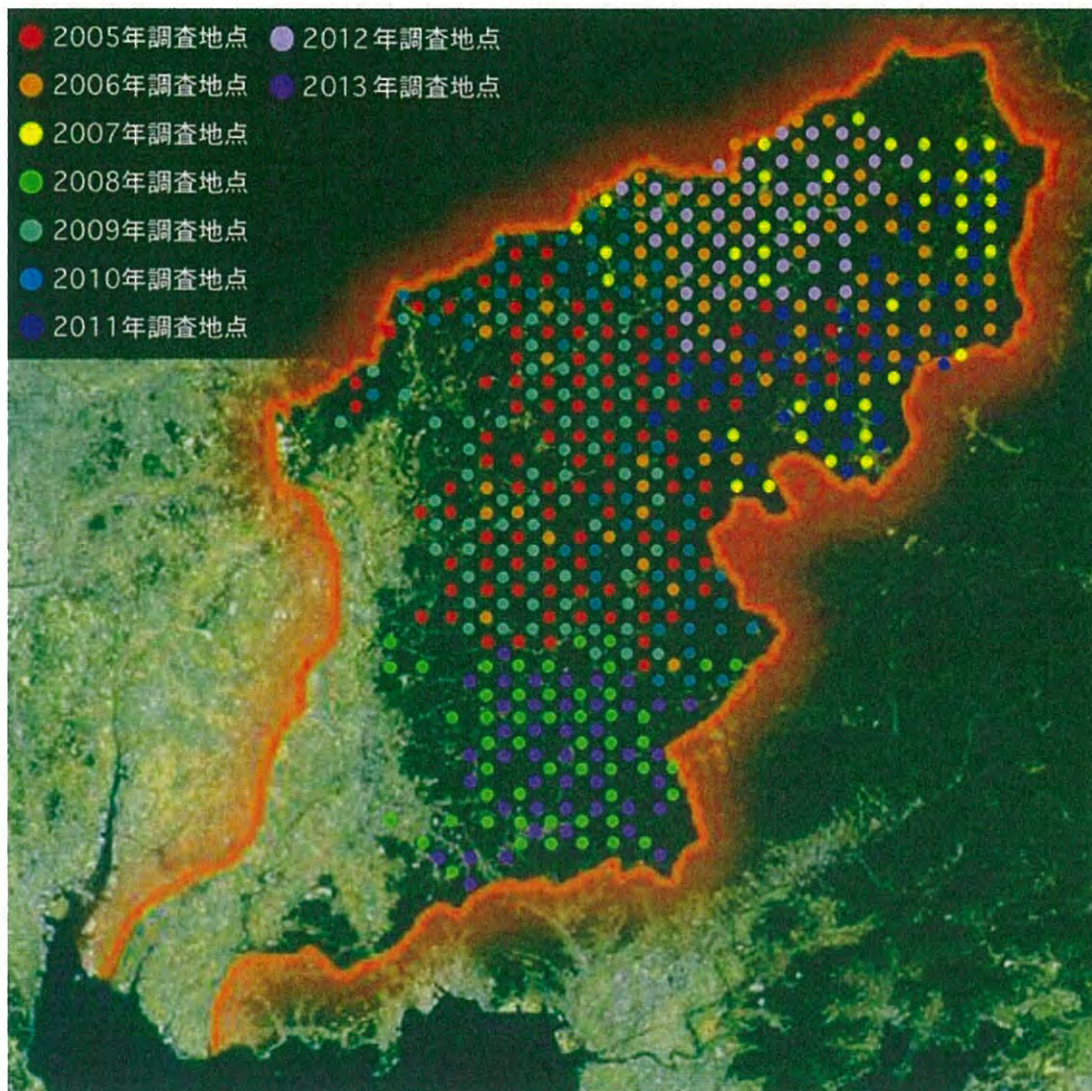
旧額田町も 2004 年、使用量 1 トンあたり 1 円を上乗せ徴収して「ぬかたの源流の森づくり基金」を創設し、間伐作業等の直接的な森林整備事業、森林の役割についての啓発及び学習事業、ボランティアによる森林整備及び間伐材利用促進運動の支援事業、上下流域の交流促進事業に使っていた。しかし 2006 年に額田町が岡崎市と合併した際にこの基金は廃止されてしまった。

### 3. 矢作川流域森の健康診断

2000 年に矢作川流域圏は東海（恵南）豪雨に襲われ、沢筋が崩落して大量の土砂と根こそぎ倒れた木が川を流れ下り、矢作ダム貯水池に流れ込み、280 万立方メートル（約 15 年分）の土砂、3 万 5 千立方メートル（約 60 年分）の流木がひと雨で矢作ダム貯水池に流れ込んだ。この影響もあり、2004 年に矢作ダムの堆砂量は計画堆砂量を上回った（渡邊・田島、2008）。この災害をきっかけとして、矢作川上流域の森林が間伐されずに放置されている実態が明らかになっていった。

2004 年に矢作川水系森林ボランティア協議会が結成された。同年、豊田市矢作川研究所の洲崎燈子氏と蔵治が共同代表となって矢作川森の研究者グループ（矢森研）が結成され、矢森協と矢森研で森の健康診断実行委員会が組織された。実行委員会は「矢作川森の健康診断」を 2005 年から毎年 1 回実施し、2013 年の第 9 回までに参加者 2,069 人が 549 地点を調査した。調査地点は一辺 2 キロメートルの格子点で行い、第 4 回までに流域を 1 巡し、第 9 回までに 2 巡した（図一 2）。その結果、調査地点の 59 パーセントが胸高断面積合計 50 平方メートル／ヘクタール以上、50 パーセントが林分形状比 80 以上、72 パーセントが相対幹距 17 未満といった「過密人工林の基準」を超えており、過密人工林と診断された。「超過密」とされる相対幹距 14 未満の地点が 48 パーセントもあった。調査結果は森の健康診断ポータルサイトで公開されている。





図一 矢作川森の健康診断の調査地点（第 9 回矢作川森の健康診断実行委員会、2013）

矢作川森の健康診断の結果で特筆すべきことは、1 巡目と 2 巡目の比較結果である。恵那市の串原、上矢作町、明智町の地域では 2006～07 年に 1 巡目の 47 地点、2012 年に 2 巡目の 42 地点の健康診断を行った。その結果、平均植栽木密度は 1679 本／ヘクタールから 1360 本／ヘクタールに減少した一方で、胸高直径の中央値は 19 センチから 23 センチに増加した。草と低木の被覆率、種数の平均値はそれぞれ 1.5 倍、2.0 倍に増加した。この地域では 2006 年から 2012 年にかけて間伐が進み、植栽木の本数密度が下がり、草と低木の被覆率や種数が増加し、「森が健康になった」ことが証明された（第 8 回矢作川森の健康診断実行委員会、2012）。この地域を管轄する恵南森林組合は、この期間に大胆な経営改革を断行し、民有林での間伐の事業量を大幅に増加させると同時に、自力での事業だけでなく民間事業者との連携による森づくりも推進しており（酒井、2012）、その努力が実って間伐面積が顕著に増加したことが、木材の生産量ではなく、間伐面積を評価する仕組みである森の健康診断の結果に現れたと考えられる。

2009 年の第 5 回矢作川森の健康診断からは、オプション調査として「緑のダム実験」も開始された。これは簡易な人工降雨実験装置で、約 2 メートルの高さから、2 リットルのペットボトル



に満たした水を、ボトルの先端に取り付けたシャワーノズルから地面に降らせる。ペットボトルは3本の園芸用支柱で支えた植木鉢用フレームに差し込んで固定する(図-3)。この装置は100円ショップで購入可能な物品のみを使って組み立てることができる利点があり、降雨の浸透能のデータを得ることはできないが、1) 豪雨の際に洪水を引き起こす原因となる表面流発生の有無、2) 散水地点の水の浸みこみ易さの指標となる散水停止時の散水域の水溜りの有無、3) 水溜りの水が地面に浸み込むまでの時間、などをおおまかに知ることができる(第9回森の健康診断実行委員会、2013)。

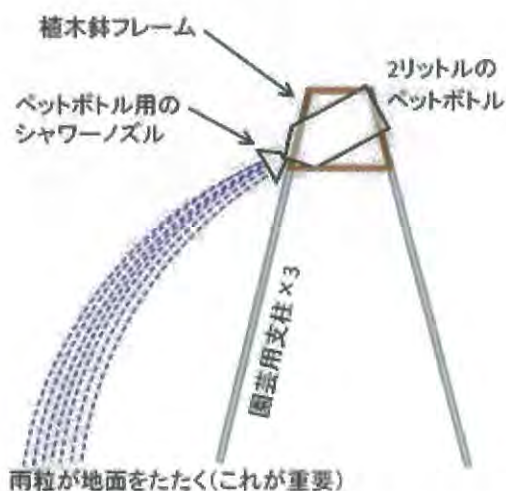


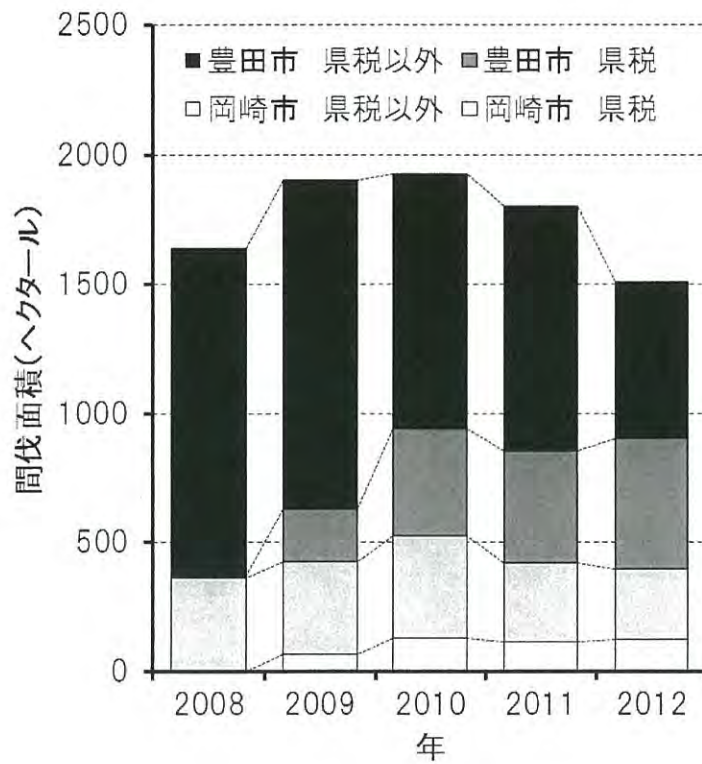
図-3 緑のダム実験の模式図(第9回矢作川森の健康診断実行委員会、2013)

#### 4. 市町村合併と流域圏の森林

豊田市、岡崎市、恵那市はそれぞれ2005年、2006年、2004年に広域合併した。豊田市と岡崎市は市域のほぼ全域が矢作川流域内に含まれ、都市と水源の森とが一体化した自治体になった。恵那市は矢作川、庄内川、木曾川の3流域にまたがる市となり、根羽村、平谷村は合併しない道を選んだ。

豊田市は2007年に「100年の森づくり構想」「森づくり条例」「森づくり基本計画」を、恵那市は2008年に「えなの森林づくり基本計画」「えなの森林づくり実施計画」を、岡崎市は2011年に「森林整備ビジョン」を、それぞれ制定した。

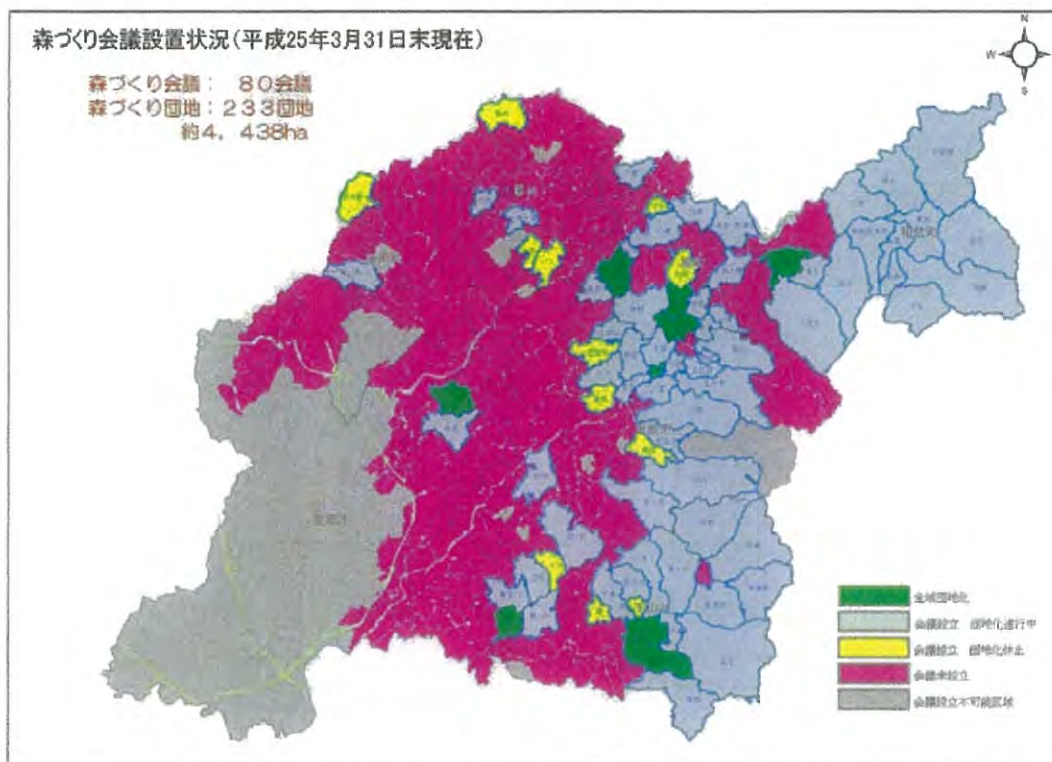
愛知、岐阜、長野県はそれぞれ2009年度、2012年度、2008年度から「あいち森と緑づくり税」「清流の国ぎふ森林・環境税」「長野県森林づくり県民税」を導入した。しかし岡崎市や豊田市では、あいち森と緑づくり税による間伐面積が増えた一方で、他の補助事業等による間伐面積が国の政策転換の影響もあって減少した結果、全間伐面積は2010年をピークに減少傾向に転じた(図-4)。また神奈川県が行っているような水源地の他県に県税を支出する取り組みを愛知県は行っていない。県民の負担も愛知県、長野県が500円であるのに対して岐阜県は1000円であり、下流県よりも上流県の方が県民の負担が多くなっている。



図一４ 岡崎市と豊田市における間伐面積の推移

豊田市の森林施策の特徴は、「森づくり会議」と名付けられた集落ごとの森林自治を実現する組織である。森づくり会議の設立を推進したことによって、都市に近い森ほど、森づくり会議の設置が困難になるということが明らかとなった。その一番の原因は、大多数の森林所有者が無関心で、会議を主導できる適任者が見つからないことだった。都市に近い森ほど管理が行き届かなくなる「ドーナツ現象」とでも言うべき状況が出現している（図一５）。この状況を打開するための決め手となる施策は、矢作川流域圏ではまだ誰も示すことができていない。





図—5 豊田市森づくり会議設置状況（豊田市、2013）

また岡崎市では、前述した森の健康診断の1巡目と2巡目の結果を比較したところ、恵那市のような数値の改善はみられなかった。旧額田町で行われた結果報告会では、「材価が安いことが最大の問題であって、材価が上がれば問題は自動的に解決する」「行政はもっと材価を上げる努力をすべきだ」という意見が多く聞かれた。明治時代から100年以上、森林を主に木材生産の場として見てきた地域では、森林の木材生産以外の価値に光を当てることは容易ではなく、木材生産が活発になれば、公益的機能もおのずから発揮される、という非科学的な予定調和論がいまだに固く信じられている実態があらためて明らかになった。確かに材価が上昇すれば木材生産はある程度、活性化するかもしれないが、それは公益的機能を顧みない低コストで大規模な方式で行われる可能性がある。また、木材生産による利益を最大化するために皆伐した跡地に植林をせずに放置する者が後を絶たず、各地で問題となっている。

## 5. 流域圏一体化へ向けての新たな取り組み

国土交通省は、1997年に改正された河川法に基づき、2006年に矢作川河川整備基本方針を策定し、2009年には同省中部地方整備局が矢作川河川整備計画を策定した。これらの計画に基づき、2010年8月に河川管理者、行政、関係団体、市民が参加して矢作川流域圏懇談会が設立され、地域部会として山部会、川部会、海部会が設けられた。山部会では流域住民の主導で議論の出発点「矢作川の恵みで生きる」を共有し、山部会で扱う課題として「人と山村」「森林」、当面の解決方法として「山村再生担い手づくり事例集」「森づくりガイドライン」「木づかいガイドライン」の策定を行うこととし、それぞれ行政、森林組合、研究者、森林ボランティア、住民によるワー

キンググループを組織して毎月 1 回会議を行っている。

旧額田町や稲武地区と同様、古くから木材生産に重点を置いてきた根羽村では、皆伐後の植林にかかるコストを低減するための検討会を立ち上げたが、流域圏懇談会の設立を受けて、コスト低減と同時に矢作川流域圏に配慮した木材生産・植林方式を検討する必要があるとして、この検討会に流域圏懇談会のメンバーを加えて議論を開始した。流域圏懇談会に山部会が設けられ、関係者が集まり、議論を始めたことが、矢作川流域圏で森づくりに携わっている森林組合や行政を動かしつつあり、流域圏が一体となった森づくりへの機運が高まってきている。流域圏懇談会は 9 年間で 1 サイクルとして課題の解決手法を提案し、実践することを目標としており、今後の流域圏の森づくりをリードする役割も期待されている。

矢作川流域圏懇談会では、森づくりと並行して、木づかいガイドラインの議論も進めている。ここで木づかいとは土木や建築、木工の材料としての利用にとどまらず、エネルギー利用も含まれる。単なる木づかいであれば輸入材や、日本の他の地域で生産された木材との競争になるので、流域圏の木づかいは、流域圏材の木づかいとすることが望ましい。矢作川流域圏住民には、木材を購入する際、矢作川流域圏材を選んで購入することが、自らの安心、安全な暮らしにつながるというストーリーを理解し、流域圏材を積極的に選択して使うことが求められており、矢作川流域圏の木材生産関係者には、そのような意識に目覚めた流域圏住民が流域圏材を容易に購入できるようなウェブサイトの構築や、アンテナショップの創設、流域圏材の安定供給体制の構築などに、一体となって取り組めるかどうか問われている。

## 6. おわりに

矢作川におけるこれまでの森づくりへの最近 10 年間の取り組みについて概観した。

かつて矢作川の森づくりのキーワードは「植林」であった。しかし流域の山がほぼすべて森林で覆われ、時を同じくして木材価格が低迷し、木材生産が不活発になり、植林できる場所（皆伐跡地）がなくなってきたことに伴い、植林が必要な状況は終わった。

10 年前から現在に至るまでのキーワードは「不健康人工林の間伐」だった。不健康人工林の実態が明らかになり、森林への関心の高い地域では間伐が劇的に進んだが、関心の低い地域では間伐が進んでいない。また木材生産を重視して間伐の伐倒木を搬出しようとする、同じ作業員の労力で間伐可能な面積がその分、減ってしまうこともわかってきた。

矢作川流域圏の森づくりの今後のキーワードは「流域圏の木づかい」となるかもしれないが、「不健康人工林の間伐」も、特に市街地に近い森や木材生産が困難な人工林では、大きな課題として残り続けるだろう。また今後は生物多様性やレクリエーション機能の発揮といった機能や、人工林だけでなく天然林についても目を向けていく必要があるだろう。

## 引用文献

蔵治光一郎・洲崎燈子・丹羽健司（編）『森の健康診断－100 円グッズで始める市民と研究者の愉快な森林調査』築地書館、2006 年

銀河書房（編）『水源の森は都市の森』銀河書房、1994 年

依光良三（編）『流域の環境保護』日本経済新聞社、2001 年

矢作川漁協 100 年史編集委員会『環境漁協宣言 矢作川漁協 100 年史』風媒社、2003 年



酒井秀夫『林業生産技術ゼミナール 伐出・路網からサプライチェーンまで』全国林業改良普及協会、2012年

第8回矢作川森の健康診断実行委員会「第8回矢作川森の健康診断2012 概要版」、矢作川森の健康診断実行委員会、2012年

第9回矢作川森の健康診断実行委員会「第9回矢作川森の健康診断2013 概要版」、矢作川森の健康診断実行委員会、2013年

豊田市「平成25年度第一回森づくり委員会資料3-1」、2013年  
(<http://www.city.toyota.aichi.jp/shingikai/ag/39/2501siryou0301.pdf>)

渡邊守・田島健「ダムにおける堆砂対策の現状と課題—矢作ダムを事例として—」日本水産工学会秋季シンポジウム「ダムにおける堆砂対策の現状と課題」、1-4頁、2008年

木づかいガイドライン作成関連資料

1 平成 25 年度 木づかいガイドラインの活動総括について

- ① 行政・森林組合等森林・木材関係者を中心とした木づかい推進の検討は、市民目線から離れてしまい、一部の専門家集団による議論に特化されてしまう懸念が生じた
- ② また、こうした関係者のみによる課題検討の傾向を打破する意味においても、流域圏懇談会への市民参加があるのではないかと、との強い意見もあった
- ③ そこで山部会の参加者全員が森づくりを含めた木づかい推進に対する検討に参加し、参加者ひとり一人がどんなガイドラインが理想的なのか、その形を検討するため「皆を木の世界に誘うためのブレインストーミング」を実施した
- ④ このブレインストーミングの実施結果により、ほぼ参加者全員が自然・森・木に対する鮮やかな原体験を認識しており、その原体験が現在の自然志向に結びついているという、原体験効果の重要性が共通認識となった
- ⑤ 同時に、「知識を得る」ことよりか、もっと体感的なことや自然の持つ神秘性・美しさ・生命感を感じ取れるような感性が育まれる場面づくりの重要性が認識された
- ⑥ また、こうした原体験が青少年期に集中することから、木づかい推進にあたっては青少年期から森や木に触れ合う機会や場所を設けていくことの大切さが認識された
- ⑦ 青少年期から木づかい推進を進め、こうした場面や機会を矢作川流域全体に広げていくためには、まず市民目線から日常的に木づかい推進に結びつく行動・活動を考えてこれを核とし、その行動・活動を行政・業界・研究が支援していくような形が望ましいという結論となった
- ⑧ こうした考え・思想を流域住民に理解してもらうため、「人生を楽しみ愛する家族と共に幸せに暮らす 森や木とそれを育む矢作川の流れと共に生きるライフスタイルへの誘い 矢作川デイズ」としてまとめてみた
- ⑨ こうした取りまとめを踏まえ、赤ちゃんから始まるトータル的な各ライフステージにおいて、市民目線による木づかい推進を行う「矢作川デイズ 木づかいガイドライン ライフステージアタック表（イメージ案）」を作成した
- ⑩ アタック表の作成と森づくりガイドラインの検討を含め、これをより具体的に進めていくため、さらに広域的な県職員・市町村職員の参加を呼びかけた結果、山部会への参加者も増え、特に 3 県の林業普及指導員による統一的な情報の把握や、県の垣根を越えた活動や連携を期待している
- ⑪ 同時に、流域内で関連する方々の新たな拾い出しを呼びかけて、本年度の活動は終了している



どんな木づかいガイドラインをつくりましょうか（イメージ案）

～人生を楽しみ愛する家族と共に幸せに暮らす

森や木とそれを育む矢作川の流れ共に生きるライフスタイルへの誘い

矢作川ディズ～

森や木とそれを育む矢作川の流れ共に生きるライフスタイルはとても素敵です。身近な生活空間の中に魅力的な木の製品をたくさんとりいれてみましょう。矢作川の流れを見つめ、自然の息吹に耳を傾けてみましょう。愛知・岐阜・長野の3県を流れる矢作川流域圏を対象としたこの木づかいガイドラインには、そんな森や木の魅力や、それを育む矢作川流域の自然環境に出会い、流域に暮らすひとり一人が未来にむけて互いに関わり合いながら、豊かで魅力的な地域社会を目指して活動していく（楽しむ）ヒントがたくさん書かれています。

この本を作った私たちは、森や木の魅力や矢作川の自然環境をたくさんの方々へ伝え、森や木や矢作川の自然環境と触れ合うことで市民の輪が広がり、そのことで地域が元気になっていくことを願っている一市民です。それぞれの様々な立場や経験から、森や木や矢作川の流れに対する愛情や想いや妄想もたっぷりこめて、矢作川流域に住む方々のために、もっと森や木を好きになろうよ、もっと地域の木を使ってみようよ、もっと森や木と共に生きている人達と友達になろうよ、そして地域に住むひとり一人が矢作川の自然環境の素晴らしさを共有し、皆で未来に向けて魅力的な森・川・海・街になるようにアクションを起こし育てていこうよ、という考え方を基本にして市民の目線からこの本を作りました。

この本を読むときっと、あなたのライフスタイルが素敵な森や木の製品に彩られることになるでしょう。訪ねてみたくなる森やお店、森や木と共に生きている人と直接会って、話してみたくなることでしょう。もっと多くの同じ気持ちを持つ仲間と出会って、魅力的な地域づくりに参加してみたくなるでしょう。そんなことを通して、あなたの心が今よりもっと明るく朗らかにそして大きく広がって、森や木とそれを育む矢作川の流れと共に生きていく素敵なライフスタイルに目覚められることを期待しています。

こんなライフスタイルは、きっと私たちの暮らすこの矢作川の上流から下流に暮らす人々の交流や結びつきを高めることになるでしょう。今まで以上に流域に住む人々への尊敬や感動、そして地域に対する思いやりの心、協力しあうことの大切さに気がつくことになるでしょう。こうしたライフスタイルの基本となるような、地域とそこに暮らす人々と共に生き愛する気持ちが、矢作川の流れを地域の心の絆として、私たちにとって本来あるべき、そして未来に亘って暮らしやすい持続可能な流域を作り出していくグッドスピリットであることを確信しています。

私達の故郷の源である矢作川の流れを見つめ、いつまでも美しい森と川と海に囲まれて人生を楽しみ、愛する家族と共に幸せに暮らすことができるように、今こそ流域に暮らすひとり一人の住民の意識改革から、この豊かな自然環境を持続可能な財産として皆の手で育み、ずっと暮らしていただきたい魅力的な矢作川流域的生活空間「矢作川ディズ」を創り上げていきましょう。



## ブレインストーミングの結果による木づかい推進の考え方

- ①ブレインストーミングの結果、市民が主役となって生活の中で自然に木づかいを推進してもらうためには、市民のライフステージに合わせた取り組みが必要と考えられる。
- ②特に、子供の頃の自然との触れ合い等の原体験が、今後の自然観や森や木や水への関心度を高めることに対して、極めて重要であることが共通認識されているので、年少時からの木づかい推進の関わりを重視したい。
- ③矢作川流域ならではの森や木と水と共に人生を楽しむライフスタイルをまず、市民生活の中において意識化（矢作川ディズ）させ、産官学の連携によって、中でも森林づくりや木づかい推進を特に意図しながら進めていきたい。
- ④市民のライフステージをベースにして多岐に渡る木づかい推進項目を整理し、各項目ごとにフォーマットを決めて検討を進めることで、テーマの絞り込み・集中化・関連する関係者の招集・ワーキング活動がやりやすくなると考えられる。例えば、今回のテーマは、A-ア-①という具合に。山部会での様々な木づかい推進アイデアを各ライフステージに盛り込んで形にしたい。
- ⑤推進項目のフォーマットが決定できれば、パターン化による電子媒体化・電子本・共通ホルダー化の作成も検討したい。場合によっては、市民からの情報収集も行いたい。
- ⑥市民が実践しているフリーペーパー「耕ライフ」誌のセンス・コンセプトを活かして、多岐に渡るテーマから順番にテーマを決めて、ポイント的に紹介して「矢作川ディズ」の見える化と推進を図りたい。
- ⑦推進項目やライフステージの区切りについては現行のイメージ（案）をベースに、ブレインストーミングにより整理したい。
- ⑧ガイドラインの作成を進めるにあたり、森づくり・木づかいの最前線の方々の参加によるワークショップを実践したい。その方々の現行の取り組みやワークショップの取り組みをライフステージアタック表に整理して組み込むだけでも、矢作川流域オリジナルとなるトータル的な木づかいガイドラインが作成できると考える。
- ⑨各県の林業普及指導員が参加してくれることにより、森づくり・木づかい推進の各県の共通項目による情報収集・人の輪づくり・行政提案・活動実践がやりやすくなると考えられる。各県の指導員の密な連絡・連携体制を期待したい。



矢作川ディズ 市民が行動を開始できる木づかいガイドライン ライフステージアタック表  
(案)

<p>矢作川ディズな ライフスタイル を確立するための ライフステージ アタック対象</p>	<p>ライフステージ の特徴</p>	<p>市民編A 森や木と水 と共に人生 を楽しむラ イフスタイ ル矢作川デ ィズへの誘 い  自発的活動  こんなこと を目指して さあ～しよ う</p>	<p>行政編B 木づかい推 進に向けた 社会環境・シ ステムづく りと矢作川 ディズへの 支援  施策による 導き  このような 意図で施策 的に取り組 んでいるの でさあ～し よう</p>	<p>業界編C 楽しい矢作 川ディズの 演出や木の 製品提供と そのことに よる持続可 能な地域産 業・生業の確 立  魅力の伝達  こんな魅力 ある商品な のでさあ～ しよう</p>	<p>研究編D 木のすばらし さを伝えて木 づかいを進め、 森林や矢作川 の持つ役割の 大切さの普及  効果の気づき と普及  だからさあ～ しよう</p>
<p>ア 赤ちゃん～ 保育園の入園前 対象者数</p>	<p>人生のはじまり 木のぬくもり 三つ子の魂 100 までも</p>	<p>① センス・ オブ・ワ ンダーの 大切さを 理解しよ う ② 木のぬく もりで育 児をしよ う ③ 家族で自 然の息吹 を感じよ う ④ 安心して 野外で遊</p>	<p>① お父さん と母さん と赤ちゃん のための 優しい 緑の散歩 道づくり ② お父さん とお母さ んと赤ち ゃんのた めの優し い緑の公 園づくり ③ 子供とお 父さんお</p>	<p>① 子供の安 全な子育てに配慮 したベビ ーベッド ② 安心して 使える木 の食器 ③ 木のおも ちゃの提 案 ④ お風呂に 浮かべる 木の玉プ レゼント ⑤ 小さな子</p>	<p>① 幼児期にお ける木との 触れ合いが もたらす効 果 ② 幼児期にお ける緑の空 間がもたら す効果</p>

		ぼう ⑤ 記念植樹をしよう ⑥ お母さんに読んでもらいたい本	かあさんが過ごしたい木と緑に囲まれた憩いの空間づくり	供さんに配慮した緑陰樹を植える	
イ 保育園児 対象者数	人生のはじまり 木のぬくもり 三つ子の魂 100 までも 五感の発達	① 自然を感じてみよう ② 木で遊ぼう ③ 木と森の物語を楽しもう ④ 子供と楽しもう	① 木造保育園の設置 ② 身の回りの木造製品の施設設置 ③ 窓辺を覆う緑のカーテンづくり	① 木造保育園モザイク床パネル ② 保育園児のための積み木のプレゼント(針・広の樹種)	① 木造校舎が児童に果たす様々な効果 ② 保育園児の好きな形・玩具の研究
ウ 小学校 対象者数	感受性の高まり 自我の芽生え センス・オブ・ワンダー 人間関係の構築(仲間に対する信頼・友情等) 自分の力の認知	① 自然を五感で感じてみよう ② 自然観察をしてみよう ③ 君に教えるふるさとの木の四季の姿(マイツリーを見つけよう・植えよう) ④ 木の工作をしてみよう	① 子供たちが入っても安全な学有林の設置 ② 先生のための木育指導ガイドブック(流域編) ③ 先生のための木育指導研修 ④ 先生のためのブックレビュー	① 児童と先生のための山仕度セット(地下足袋・鉋・鋸セット) ② 地元の木を使用した魅力的な校舎の建築 ③ 木のキットハウスの提案(木の工作室)	① 自然との出会いがもたらす創造力・観察力・協調性の効果 ② 木造校舎が児童にもたらす情操効果 ③ 子供のための木の科学実験ガイドブック ④ 森の働きについての理解を高める教材づくり



		<ul style="list-style-type: none"> <li>⑤ 木の面白科学実験で木を好きになろう</li> <li>⑥ ネイチャーゲームで楽しもう</li> <li>⑦ 森の中で秘密基地を作ろう</li> <li>⑧ ボルダリングで岩を楽しもう</li> <li>⑨ ツリークライミングで木を楽しもう</li> <li>⑩ ツリーハウスを作ってみよう</li> <li>⑪ こんな本を読んでもみよう</li> <li>⑫ 木と森の物語を楽しもう</li> <li>⑬ 川に行っ てプラナ リアを見 つけよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑤ 地元の木を使用した魅力的な校舎の建築</li> <li>⑥ 入学祝い・卒業記念になる机・椅子セットのプレゼント</li> <li>⑦ 少年たちに向けた地域と結びついた水と木と森の物語の創作</li> <li>⑧ 小学校の授業に山の授業を導入</li> <li>⑨ 地下足袋を揃える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>④ 木と木を結ぶスカイウォーカー・ワイヤー滑り・ツリーハウス</li> <li>⑤ 児童のための丸太・木材プレゼント</li> <li>⑥ 端材を活用した教材キットの開発</li> </ul>	
工 中学校 対象者数	思春期	① 木の名前と特徴を知ろう	① 森と木に親しむ中学生のた	① 児童と先生のための山仕度	

		<ul style="list-style-type: none"> <li>② 仲間と海から水源（逆も可）を目指す流域の旅に出かけよう</li> <li>③ 流域の面白い場所を見つけよう</li> <li>④ 自然の中でチャレンジしてみよう</li> <li>⑤ こんな本を読んでみよう</li> <li>⑥ 山づくりのプロの技を見よう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>めのチャレンジ読本の創刊</li> <li>② 森と木に親しむ技能ブックの紹介</li> <li>③ 大工と建てる木の家と内装</li> <li>④ 森と川と共に生きた人々を学ぶ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>セット（地下足袋・鉋・鋸セット）</li> <li>② 地元の木を使用した魅力的な木造小学校の建築</li> <li>③ 木のキットハウスの提案（木の工作室）</li> <li>④ 木と木を結ぶスカイウォーカー・ワイヤー滑り</li> <li>⑤ 児童のための丸太・木材プレゼント</li> </ul>	
<p>オ 高等学校 対象者数</p>	<p>人生の選択</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 矢作川流域圏懇談会の調査に参加してみよう</li> <li>② 身近な里山を活用するプランづくりをしてみよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 緑と川と共に生きていくライフスタイルの提案</li> <li>② 木と緑と川の最前線で働く卒業生に</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 私達の木と緑の職業案内</li> <li>② 地域を活かした地域産業ガイドダンス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 木と緑と川のための新たな研究者を求めようガイドダンス</li> </ul>



		よう	今の職業を聴く ③ 地域づくりを目指す若者のためのふるさとの自然を教える行政主導のガイダンス		
カ 大学 専門学校 対象者数	自我の確立	① 森や木や流域に対するテーマを見つけてみよう ② 地域社会の改革にチャレンジしてみよう ③ 遊休農地・里山活用にチャレンジしてみよう ④ 地域で活躍している人たちに会いにいこう ⑤ マイチェンソーを持ちましょう	① 学生の研究や起業チャレンジのためのフィールド提供	① 各県の林業研究機関と連携した木質化推進テーマ研究	② キャンパス内の木質化・都市部等の木質化に関する研究 ③ 水源地域での大学演習林設置による市民に向けた森林学習

<p>キ 就職 対象者数</p>	<p>社会人</p>	<p>① 自分の職場環境で木づかいを進めてみよう ②</p>	<p>① 就職記念の木のフィールド提供 ② 企業による毎年恒例記念植樹・緑の回廊づくりの場の提供</p>	<p>① 木と共に暮らす様々なアイテム</p>	
<p>ク 市民・社会人 対象者数</p>	<p>ライフスタイルの確立</p>	<p>① 地元の木で家を建てよう ② 木のお店へ出かけてみよう ③ 木の木陰を見つけて散歩やサイクリングをしよう ④ 森や源流を訪ねて四季を楽しもう ⑤ 暮らしやすく魅力的な自然環境をつくろう ⑥ 身近な里山で母樹を見つけよう ⑦ 地域材住</p>	<p>① 市民や公共施設の木づかいを推進する様々な制度と支援策 ② 木づかいを推進するための業界と研究機関との連携やシステムづくり ③ 木づかいによる公共空間づくり市民活動スギダラ ヒノダラ 広ダラ 矢作川の実践 ④ 木と森と</p>	<p>① 地元の建築士・工務店による様々な木の住まい提案 ② 様々な木の製品を扱うお店からの住まい提案 ③ 各社の快適住まい最新提案 ・ 断熱 ・ 結露 ・ 防水 ・ 温度・湿度調整 ・ 防音 ④ 広葉樹の利用編 ⑤ 径級別建築部材確保による建築部材</p>	<p>① 木の住まいの魅力を伝える様々な科学的データ ② ウッドマイレージの考え方による国産材の普及 ③ 木造公共施設の低コスト建築方法</p>



		<p>宅の見学会に出かけよう</p> <p>⑧ 木の住まいを考えるにはこんな本を読んでもみよう</p> <p>⑨ 里山の哲学と知的財産に会いに行こう</p>	<p>田舎との出会いバスツアー 交通費支援</p> <p>⑤ 田舎の親戚制度で田舎を持つ</p> <p>⑥ 木材のパイロット価格制度導入による木材の安定供給</p>	<p>の共通化</p> <p>⑥ 木材利用ポイント制度の普及</p>	
結婚 対象者数	旅たち	<p>① 記念樹を植えて木と共に生きよう</p> <p>② 木の住まいを検討してみよう</p> <p>③ ライフプランを考えよう</p> <p>④ 素敵な木の教会での挙式</p> <p>⑤ 森に祝福される日</p>	<p>① 木づかいによる結婚式の素敵な演出・支援措置</p> <p>② 結婚記念林の設定</p>	① 木の結婚記念品の開発	
出産 対象者数	家族			① 木の出産記念品の開発	
マイホーム 対象者数	家族の和 生活拠点				
増改築	住まいの補修	① 現在の住	① 木づかい		

対象者数		まいを木造にしてみよう ② 室内の内装に木を使ってみよう	推進のための増改築支援		
セカンドハウス対象者数		① 仲間と集まる家を建てよう ② 里山サロンを作ってみよう ③ 遊休農地でクリエイティブな農業にチャレンジ	① 市民による木づかい推進・地域づくりのための活動拠点施設支援 ② 遊休農地活用と結び付けた里山活動拠点施設 ③ 田舎の親戚制度の創設	① 小さく住まう住宅提案	
市民・社会活動対象者数	森づくり・木づかいを通しての人生の楽しみ	① 皆が集まる公共空間を木と緑の憩いの空間に変える ② 木づかいや流域を愛する気持ちをつなげ絆を高める矢作川ディ			① 森の健康診断の結果報告 ② 木づかい推進による持続可能な地域づくりは可能なのか



		<p>ズ 駅 伝 （海から 水源（1 日目、水 源から海 2 日目水 源 から 海）をや ってみよ う</p> <p>③ スギダ ラ・ヒノ ダラ・広 ダラ矢作 川運動の 推進</p>			
<p>人生の達人 対象者数</p>	<p>後世にスピリッ トを伝える 後世に技術・技 能を伝える</p>	<p>① 森づくり やその歴 史を語ろ う</p> <p>② 自慢の我 が家を紹 介しよう</p> <p>③ 森や木や 矢作川の 流れと共 に暮らし た 良 き 日々を語 ろう</p> <p>④ 人生の達 人者のお 話を傾聴 しよう</p>	<p>① 地域文化 の発信施 設</p>	<p>② 技能・文 化の継承</p> <p>③ 達人が伝 えたい 森・木づ かいの場</p>	<p>① 偉人達の足 跡を後世に わかりやす く伝える</p>

木づかいガイドライン 市民編A (案)

NO	内 容	提案者
1	弓矢づくりにチャレンジしよう	
2	自分の好きな木のペンダントを作ってみよう	
3	自分でマイお箸を作ってみよう	
4	自分のお家の木の表札づくりチャレンジしてみよう	
5	自分の好きな板をピカピカに磨いて自分だけの宝物にしてみよう	
6	自分で薪を作ってドラム缶風呂を沸かし湯につかろう	
7	木の葉っぱで部屋の匂いをよくしてみよう	
8	木のカルタ取りにチャレンジしよう	
9	自分のマイツリーを見つけて名前をつけよう	
10	いよいよ自分で森づくりにチャレンジしよう	
11	木の幹にハンモックを吊るして涼しく昼寝してみよう(ハンモック店)	
12	ツリーハウスに遊びに行こう	
13	自分だけの露天風呂と足湯を手に入れよう	
14	自分のお風呂に木を浮かべて香りを楽しもう	
15	日本の代表 50 種の樹木を覚えよう (葉の標本づくりにチャレンジ)	
16	自然の生き物観察場所の看板を立てよう	
17	日本人なら木のお風呂のある温泉につかろう (中房温泉)	
18	チェーンソーアートを学ぼう	
19	色々な木のおもちゃづくりや木工作にチャレンジしよう	
20	きれいな川で遊ぼう	
21	自分だけの滝に道を開けてマイナスイオンを浴びよう	
22	木のある公園のウッドデッキで読書しよう (ブックレビューもつくろう)	
23	木と森のある素晴らしい大学に遊びに行こう (信州大学農学部ゆりのき)	
24	筏で川下りにチャレンジしてみよう	
25	木のアンテナショップに遊びに行こう	
26	スギダラチームメイトになってあらゆる生活空間をスギダラけにしよう	
27	夜空を見上げ星と森の声聴こう	
28	子供のための木の科学実験を楽しもう	
29	自分達の手で山の木を搬出して地域通貨を手に入れよう	
30	自分達の手で豊田から根羽まで縦走路を整備して休憩小屋を建てよう	
31	自分で取り組んだ森の健康診断を活用しよう	
32	木のお店案内ブックをつくろう	
33	木の小屋においでよ (中村好文さんと連携)	



木づかいガイドライン 県・市町村編B (案)

NO	内 容	提案者
1	山主森林経営講座に参加して自分の山を管理の仕方を学ぼう	
2	森林自然観察リーダー入門講座に参加して自然観察の基本を学ぼう	
3	間伐ボランティア初級講座に参加してチェーンソーによる間伐を学ぼう	
4	山主自力間伐講座に参加してチェーンソーを使って自分の山を間伐しよう	
5	セミプロ林業作業員養成講座に参加して林業就業者を目指そう	
6	森林セミナーに参加して色々な森林を歩きながら森林管理を学ぼう	
7	矢作川源流の森ウォーキングに参加して源流域の動植物を観察しよう	
8	夏休み昆虫観察に参加して森の生き物の生活や不思議さを体験しよう	
9	初めての間伐体験に参加して簡単にできる間伐を学ぼう	
10	森林調査いろいろ学習会に参加して植生・林分・土壌調査の基本を学ぼう	
11	「木づかい」いろいろ発見に参加して原木きのこの菌打ちを体験しよう	
12	森林の草花調べに参加して高原・山地・丘陵の草花を学ぼう	
13	間伐してベンチの製作まで全工程を自分達で行い、公共施設に寄付しよう	
14	様々な山の助成金制度を活用して自分の山づくりに取り組もう	
15	様々な木の家づくりの助成金制度を活用して地元の木で家を建てよう	
16	地元の木を使った住宅見学会に参加して地元の木で家を建てよう	
17	木造公共施設を訪ねて木の使い方を参考にしよう	
18	各地で取り組まれている間伐材利用事例を参考に矢作川流域材を活用しよう	
19	根羽スギの家モデル住宅に体験宿泊して木の家を楽しもう	
20	長野県地域発元気づくり支援金事業に応募して皆のふるさとを作ろう	
21	根羽村地域発元気づくり支援金事業に応募して皆のふるさとを作ろう	
22	根羽スギ柱材 50 本無償提供事業を使って有利に根羽スギ住宅を建てよう	
23	市町村有林を使って新しい森づくりにチャレンジしよう(伐採・造林一貫施業)	
24	市町村有林を使って子供たちに間伐を教えよう	
25	皆で憩いの森の木道・木橋づくりにチャレンジしよう	
26	都市の中心部に緑の憩いの公園を計画してつくろう(豊田市・番外飯田市)	
27	長野県 信州型エコ住宅推進事業 50～80 万円の助成	
28	長野県 信州型住宅リフォーム促進事業 20～50 万円の助成	
29	岐阜県 産直住宅建設支援制度 105,000 円相当の木材支給	
30	岐阜県 ぎふの木で家づくり支援事業 20 万円の助成	
31	岐阜県 ぎふの木で内装木質化支援事業 10 万円の助成	
32	岐阜県 ぎふの木で家づくりローン支援制度 優遇金利による支援	
33	愛知県 あいち認証材利用促進事業 構造材・造作材等 8,000 円/m <sup>3</sup> の助成	

木づかいガイドライン 業界編C (案)

NO	内 容	提案者
1	君も人生の方針として自然科学や農林業を選択しよう	
2	君も、自分が主役になれるクリエイティブ産業・農林業の担い手になって地域を元気にしよう	
3	君も夢と希望あふれる地元の森林組合職員になって、豊かな自然の中で森づくりと木づかいを楽しもう	
4	森づくりの達人（森の民）になるために様々な技能を身につけよう	
5	森林簿と施業図を使って自分の山を覚えよう	
6	自分の山づくりのプランを建ててみよう（オーダーメイドの山づくり）	
7	様々な木材の搬出方法を見学しよう	
8	山の技能作業手順書をマスターしよう	
9	自分の山の木がいくらになるか森林施業プランを提出してもらおう	
10	自然を楽しむ様々なグッズを手に入れて自然の中に飛び出そう	
11	国産材の家づくりに実績のある工務店・建築士さんに会いにいこう	
12	机やイス・家具など一生使える木製品の注文をしよう	
13	一生使える机やイス・家具など木製品を家族で製作してみよう	
14	魅力ある国産材製品のカタログを入手して木のある暮らしをはじめよう	
15	森づくりと木づかいに取り組む、知って得して面白い魅力的な方のお話を聞きにいこう	
16	製材工場の端材を使って小屋づくりをしよう	
17	住宅建築フェアを見に行こう	
18	東京おもちゃ美術館を見学し児童向け木のおもちゃを研究しよう	
19	ナイス企画 需要創造型イベント・体感ツアー・木の感謝祭に参加しよう	
20	ナイス企画 ナイスパワーホーム豊田プレミアムのコンセプトを学ぼう	
21	木曽川流域材の家づくりのシステムを学ぼう	
22	オークビレッジ木の時間工作にチャレンジしよう	
23	木の工作に必要な広葉樹を育成しよう	



木づかいガイドライン 研究編D (案)

NO	内 容	提案者
1	地元の大学と地域連携協定を締結して、山村・里山の課題解決に向けて学生と一緒にチャレンジしよう	
2	持続可能な地域づくりに向けて里山の課題を市民から集めよう	
3	次世代に向けた森づくりと低コスト造林を確立しよう	
4	スギ人工林の植物種多様性を評価し、生物多様性保全に留意した森づくりに取り組もう	
5	伐採後に発生するスギ針葉から精油を抽出して商品化に取り組もう	
6	農林一体化事業を支援する地理情報の可視化手法を開発しよう	
7	山村の聞き書き調査を行い、山村文化を発掘し継承しよう	
8	雪害被害林の今後の施業指針を確立しよう	
9	集落周辺の森林について保残木マーク施業等景観林施業を確立しよう	
10	スギ重ね梁の実用化を実現させよう	

## 木づかいガイドライン作成関連資料

## 1 森林組合関連事項

県名	森林組合名	H23 素材生産量 (m <sup>3</sup> )	出荷先	製材品 換算 50% (m <sup>3</sup> )	関連工務店
愛知県	豊田森林組合	21,075	自社（愛知） 本州市売（愛知） 大口（愛知） ホルツ三河（愛知）	10,538	愛知県
	岡崎森林組合	3,984	本州市売（愛知） ホルツ三河（愛知） 西村木材（三重） ヤマガネ商事（愛知）	1,992	愛知県 三重県
岐阜県	恵南森林組合	4,355	東濃共販所（岐阜） 西垣（岐阜） 東海木材総合市場（愛知）	2,178	愛知県 岐阜県
長野県	根羽村森林組合	6,031	自社（長野） 東濃共販所（岐阜） 東海木材総合市場（愛知）	3,016	長野県 愛知県 岐阜県
		35,445		17,724	

## 各森林組合の共通認識

- ① 矢作川下流域で地域材利用による木づかいが進むことにより、持続的な組合経営が可能となる
- ② 持続的な組合経営が可能となることから、地域の雇用・拡大再生産・地域産業の成立・若者定住に結びつく
- ③ 同時に、上流域の森林整備が継続的に推進される
- ④ 上流域の森林整備が推進されることにより、森林の公益的機能が維持できる
- ⑤ 森林の公益的機能の発揮により、下流域の水資源の安定供給が可能となる

以上の理由から各森林組合は、下流域での木づかいが推進されることを望んでいるため、木づかいが流域で推進されるようなブレークスルー（革新的な取り組み・仕組みづくり・サプライズ）に結びつくような「木づかいガイドライン」を作成したい。このため、素案の内、特に⑤、⑥、⑦、⑩の項目に力を入れたい。



同様に、「木づかいガイドライン」を木づかいの理想的な形を示して導くことに重点を置き、これを手に取った方が新たな木づかい推進のヒントとなるよう当ガイドラインのオリジナル性にも留意したい。

#### 現時点での内容（案）

- ① 私たち矢作川流域住民にとって木づかいの意味とはなんだろうか
- ② 身近な生活空間の中にある豊かな木のある暮らし・木の魅力
- ③ 子供から大人まで伝えていきたい木と森とそこに活躍する人たち（事例集等と関連付け）
- ④ 木づかいを支える事業体のコンセプトと活動
  - ・ 森林組合 ・ 製材所 ・ 工務店 ・ 建築士 ・ 木材市場 ・ クラフトマン
- ⑤ 流域で使いたい魅力的な木の製品・それを生み出す魅力的な仕組みと活動（提案）
- ⑥ 今進められている木づかいのための様々な研究テーマ・成果・研究者紹介
- ⑦ 流域の木づかいのヒントとなる様々な木づかい事例
  - ・ 個人地域材木造住宅 ・ 地域材公共施設 ・ 森林空間利用 ・ 木育アイテム
- ⑧ 木づかいを進めるための様々な支援策と特典
- ⑨ こうして楽しむ木と森林空間 流域で取り組む木育プログラム 木のマイスター制度
- ⑩ 木の利用推進による持続可能な地域づくりに向けての提案
  - ライフラインを支える森づくり→森づくりを進める木づかい→木づかいによる生業の成立→生業の成立による持続可能な地域づくり・地域活性化・地域産業山村消滅の回避

#### 2 ブレークスルー（革新的な取り組み・仕組みづくり・サプライズ）のためのブレーンストーミングのテーマ

木づかいガイドライン作成にあたって部会メンバー等で話したいこと

- ① 身近な生活空間の中にあると良いと思われる木製品・木造施設とは
- ② 過去に見て記憶にあるこれと思うような木製品・木造施設とは
- ③ 新しい革新的な木材利用とは
- ④ 皆さんが地域材で木造住宅を建てようとした時に何があるとよいでしょうか
- ⑤ 木使いが進むブレークスルー（革新的な取り組み）とは それはどうしたらできるか
- ⑥ スギダラ・ヒノダラ・矢作川 流域圏をヒノキだらけ、スギだらけにするには
- ⑦ 環境に配慮する企業の木材利用指針をつくるには
- ⑧ 市町村役場・環境教育関連施設の木材使用量を上げるには
- ⑨ 木による幸せの創造とは

- 3 現時点で木づかい推進のため既存の概念を打ち破るブレークスルーとしての検討項目（案）  
（豊田森林組合林さん・豊田市森林課原田さんとの打合せより）
- ① 県・市町村の枠を外して木づかい推進を進める姿勢
  - ② 流域材活用を最優先とするが県産材概念にとらわれず国産材活用を推進していく姿勢
  - ③ 岐阜県の岐阜認証材制度と長野県の信州認証材制度の共有化（J A Sと同等）
  - ④ 愛知県での岐阜認証材制度と信州認証材制度の適用（J A Sと同等）
  - ⑤ 理想的な市町村木材利用指針の提示・年度別施設計画表の追加による木づかい推進
  - ⑥ 理想的な企業木材利用指針の提示・年度別施設計画表の追加による木づかい推進
  - ⑦ 市町村等における公共施設建築分離発注（材料と施工）方法の提案
  - ⑧ 間伐材搬出径級に応じた部材提案または部材提供を意図した森林情報管理
  - ⑨ 各森林組合の長所学習会の開催による組合体力・連携強化の取り組み
  - ⑩ 流域圏の木づかいを推進する木材コーディネーターの検討
  - ⑪ スギダラ・ヒノダラ・矢作川 流域圏をヒノキだらけ、スギだらけにする活動提案
  - ⑫ 同活動に伴うデザインコンテストの開催
  - ⑬ 木材市場のパイロット価格化に向けたシステム検討



## 根羽村木づかい推進の取り組み

## 趣旨

根羽村は村民を始めとして、将来志ある若者が農林業を始めとする地域産業で経済的に安心して自立し、根羽村に永住できるように森林資源や遊休農地・ジビエ等地域資源を活かした村づくりに取り組んでいる。中でも、森林組合を中心とした林産業においては伐って加工して販売する「トータル林業」のスタイルを確立している。

こうした林産業の持続化により村の活力を高め維持していくためには、上流域にある森林資源を下流域の住民がごく普通に日常生活の中で活用できるように、上流域に住む私達「森の民」から木づかい思想の定着や木育指導、魅力的な木製品製作・活用提案に取り組みなければならない。

そこで今後、矢作川下流域住民の全ライフスタイルを対象とした「木のある暮らし」を普及させるため、様々な木づかい提案「スギダラ」活動を展開するものである。

機関名	取り組み項目
根羽村	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 柱材 50 本無償提供事業</li> <li>・ 信州の木活用モデル地域支援事業（露天風呂・足湯）</li> <li>・ 杉風の家</li> <li>・ 小さく住まう魅力的な木の住まい</li> <li>・ 集合住宅</li> <li>・ モデル住宅宿泊体験</li> </ul>
森林組合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 根羽村トータル林業</li> <li>・ 低コスト造林事業</li> <li>・ 森林組合ホームページ作成事業</li> <li>・ 木づかいガイドライン</li> <li>・ 木のある暮らし講座</li> <li>・ ネバリン特殊木工部隊スギダラ</li> </ul>
森の民 ねばりん	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 木の駅プロジェクト</li> <li>・ 菜の駅プロジェクト</li> </ul>

## 1 木のある暮らし講座の構想について

根羽村は森林資源を活用した林産業を基幹産業としており、根羽スギ住宅の建築部材を県内の工務店に広く供給しているところである。一方で、根羽村には農家民泊による農産物等の収穫体験や、安城市や名古屋市の児童等による山村体験、アイシンググループによる交流イベントとして多くの方が根羽村を訪れている。

そこで、こうした現在の来村者に現在の対応メニューの他に根羽スギ等による「木づかい・木工作」のメニューを加えることによって、根羽村の木をもっとPRし「木のある暮らし」を広めていくことにより、地域材の木づかいと販路拡大を推進する。

また、根羽スギ住宅のお施主様に、住宅建築と同時に家族でテーブルやイスを製作する機会や場所を提供したい。

## 2 暮らしの中で使える根羽スギオリジナル商品について

- ① 食器・お皿・木のおもちゃ等身近な小物類
- ② 机・テーブル・本棚等の家の中で使う家具類
- ③ ウッドデッキ・スモールハウス・足湯・露天風呂等（耕ライフキット）の屋外で使用する大型のもの

以上の木工品についてデザインを優先して商品化し、ホームページに掲載して受注販売を行う。木工製作指導体制について検討する。

## 3 無料モニター貸出利用による商品に対する意見の徴集について

上記③については、原則として移動しやすいことに配慮し、無料モニターの貸出を行い利用者の意見を集め改良する。③のフィールドとしてグリーンハウス森沢及び檜原地区を予定している。

## 4 工作室・木工サロンスギダラ・工作器具について

木工作室の必要性、規模、設置個所、機能、必要木工器具、指導者

## 5 その他

木工製作指導  
集客・プログラム化  
材料提供

等の役割分担検討及び補助事業の適用



商品の決定・ホームページへの掲載・コンセプト（案）

根羽スギダラ商品の決定・ホームページ掲載

NO	時 期	実 施 内 容	担当者
1	9.11	つくるものを決める	
2		試作品を作る	
3		試作品作成者と作成過程を映像化する	
4		試作品を使うモニター（村民か信大生）を決める	
5		試作品を利用している映像を撮り、感想を入れる	
6		単価を決める	
7		ホームページにアップする	
8		当初は受注生産・材料提供方式とし、製作指導体制を検討する	

根羽スギダラ商品製作のコンセプト

NO	内 容
1	原則的に根羽村のスギ・ヒノキ・その他樹種であること
2	根羽村村民を始め、矢作川流域等の関係者が参加・団結して、木づかい推進による森づくりや持続可能な地域のシステムをつくること
3	木づかいによって人と木の時間、人の居られる場所をつくること
4	製品はホームページにアップし、製作者、製品、製品利用者（村民等）の映像・コメントを入れること
5	作られた製品を村民が利用していること
6	小さいものから大きいものまで全ライフステージで利用されること
7	夏休み課題工作に対応できるものを含めること
8	根羽村内の農林一体的活用のアイテムとして、遊休農地と周辺森林の活用による外貨獲得に配慮すること（耕ライフキット[仮称]で遊休農地解消）
9	製品の製作者は当面、森林組合（村民アイデア）、阿部建設（オリジナルデザイン・大工製作）、松島クラフトマン（オーダー製作）を想定していること
10	製品の材料は基本的に森林組合の製品在庫を想定していること
11	この取り組みを名古屋市・豊田市・安城市の工務店と連携すること
12	安城市の環境教育や農山村交流に力を注いでいる小学校児童・ファミリー・アイシングループファミリーを想定顧客とすること
13	チーム名を「ネバリン特殊木工部隊スギダラ」とすること。特殊の意味は、単なる一事業体による木工品製作でなく、多様な木づかい用途に対応すること、レパトリー・技能のある村民（他地区有志参加有）が参加すること、

	上流域の森林組合と下流域の工務店が連携すること、木育を重視することにある	
14	森林組合では「ネバリン特殊木工部隊スギダラ」の活動日を土曜日と想定すること。内容は製品製作、木工指導、木育出張（工務店等との連携含む）	
15	この取り組みは持続可能な村づくり・森林組合経営に向けた活動でもあること。大規模な生産による安価な製材品販売を行う木材製品生産大工場に対し、製品単価では勝てない。そこで、私達の特色を活かして下流域の工務店と連携して生き残りを図る。私達の利点は ① 原材料となる森を育み、それを活用できること ② 活動に関わる人の顔がみえること ③ 全ライフステージの中で木と共に暮らす物語がつくれること ④ 将来的な根羽スギ住宅の顧客及び工務店の獲得に結びつくこと ⑤ 自分達が利用し、その利点を自ら語れること ⑥ 遊休農地・周辺森林の活用等、村に人が来て活動できる場所があり、それを楽しむライフスタイルの提案による外貨獲得が図れること ⑦ 上流域に住む「森の民」から下流域住民に向けた木づかい推進のための発信であること ⑧ 木や森と共にある暮らしや喜びを伝えられること	
16	根羽スギ住宅を計画されているお施主様に対して、併せて根羽村での遊休農地を活用した耕ライフスタイルを提案できるように導くこと	